ホクコーゼロカウント™粒剤

■種 類 名：スピノサド粒剤
■有効成分：スピノサド----------1.0%
[スピノシンA----------0.86%]
[スピノシンD----------0.14%]
■化管法指定物質：スピノサド[第１種]----------1.0%

■登録番号：第23887号
■毒　　性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
■登録初年：2017.01.11
■性　　状：類白色細粒
■有効年限：５年
■包　　装：1kg×12袋、10kg×1袋

【特長】

- 水稲に対する安全性が高く、は種前から移植当日まで処理できる。
- イネドロオイムシなどの初期害虫からフタオビコヤガなどのチョウ目害虫まで防除できる。
- スピノサドは天然物由来であり、多くの「特別栽培米」で化学合成農薬の使用回数にカウントしない有効成分として認められている。（一部の地方自治体によって使用基準が異なる場合があるので、使用前に関係機関に確認すること）

【適用内容】（2023 年 10 月末日現在）

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	スピノサドを含む農薬の総使用回数
稲（箱育苗）	イネドロオイムシ	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約５ﾘｯﾄﾙ）１箱当り 50g	は種前	１回	育苗箱の床土に均一に混和する。	１回
		高密度には種する場合は 1 kg/10a（育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約５ﾘｯﾄﾙ)1 箱当り 50～100g				
	イネドロオイムシ フタオビコヤガ	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約５ﾘｯﾄﾙ）１箱当り 50g	は種時（覆土前）～移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。	
		高密度には種する場合は 1 kg/10a（育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約５ﾘｯﾄﾙ)1 箱当り 50～100g				
	ニカメイチュウ イネツトムシ	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約５ﾘｯﾄﾙ）１箱当り 50g	移植２日前～移植当日			
		高密度には種する場合は 1 kg/10a（育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約５ﾘｯﾄﾙ)1 箱当り 50～100g				
	イネミズゾウムシ幼虫 イネヒメハモグリバエ	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約５ﾘｯﾄﾙ）１箱当り 50g	移植当日			
		高密度には種する場合は 1 kg/10a（育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約５ﾘｯﾄﾙ)1 箱当り 50～100g				

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 育苗箱の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落としたのち、十分灌水すること。
- 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
- 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。

- 育苗箱（30×60×3㎝、使用土壌約５㍑）１箱当りに乾籾として２００から３００g程度を高密度には種する場合は、１０a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/１０aまでとなるよう、育苗箱１箱当りの薬量を５０から１００gまでの範囲で調整すること。
- 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
- 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態(湛水深３～５ｃｍ)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないよう注意すること。
  誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン･長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをすること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
  散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。